

第10回次世代型太陽電池の導入拡大及び産業競争力強化に向けた官民協議会

○日時

令和8年5月20日（水）10:00～12:00

○場所

オンライン開催

○プログラム

1. 開会
2. 井野俊郎経済産業副大臣 挨拶
3. 次世代型太陽電池に関わる動向について
 - ・事務局・環境省・国土交通省
4. 議論
5. ペロブスカイト太陽電池の事業化に向けた取組について
 - ・積水ソーラーフィルム株式会社／パナソニック ホールディングス株式会社
／長州産業株式会社
6. ペロブスカイト太陽電池の導入促進について
 - ・東京都／大阪府／愛知県
7. 業界団体の設立について
 - ・日本ペロブスカイト太陽電池普及促進協議会（JPSC）
8. 設計・施工ガイドラインについて
 - ・産業技術総合研究所
9. 議論
10. 閉会

○議事概要

1. 全体について

- ・ 官民一体での海外マーケットへの展開策を検討することは重要。国内での実用化を踏まえつつ、より高性能な第2世代となるペロブスカイト太陽電池の基礎研究や海外展開施策の推進をすべき。
- ・ 海外展開の初期段階においては、個社の営業力も限定的であることが想定されるため、先進国の都市部等にターゲットを絞り展開していくことが重要、併せて海外展開に係わる政府のリードも重要と思われる。
- ・ 実発電量の正確な評価手法の確立やパワコン等の周辺技術も早期に支援することが重要。
- ・ 施工・メンテナンス・リサイクルを含む循環型サプライチェーンの構築を通じて、単純なもの売りではない形で勝ち筋を描くべきである。

2. 需要創出について

(導入補助について)

- ・ 中長期的には、地場の施工事業者を育成するための施工講座の実施など、地域経済への好影響を与える事業とのセットでの展開も検討すべき。

(インフラ部門・自治体における取組について)

- ・ インフラ空間への導入に際して、港湾法や空港法、鉄道事業法等で何らかの規制がある場合においては、規制の見直しも重要。
- ・ インフラ部門の定義については公共施設に絞らず、幅広く捉え、次世代型太陽電池と好相性と推察される物流施設・冷蔵倉庫といった場所への導入促進も視野に入れるべきではないか。
- ・ 学校体育館については、災害時の避難施設として重要であり、高効率空調設備の設置を進めているところ。大規模停電時の高効率空調設備への電力供給という観点から、ペロブスカイト太陽電池を合わせて設置するという施策についても文部科学省等からの積極的な推進を検討すべき。

(設計・施工ガイドラインについて)

- ・ ガイドラインの策定は評価。他のガイドラインとの整合性を取るべきである。
- ・ 建築基準法における取扱の明確化やモジュール側の認証制度の整備等も必要である。

3. 業界団体の設立について

- ・ 各社の知見を集約することで、早期に循環型サプライチェーンの構築の推進を期待。製品登録等をはじめ、ペロブスカイト太陽電池の国内出荷量の正確な把握等に対する寄与を期待。

お問い合わせ先

経済産業省資源エネルギー庁

省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課

電話：03-3501-4031